

白藍塾オリジナル

2016入試小論文分析&解答のヒント

2016年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・総合政策学部

今年度は、「格差社会」についての6つの資料を読んで答える問題になっている。6つの資料は、それぞれ「国際比較」(資料1・2)、「職業の世代間移動」(資料3・4)、「高齢化」(資料5・6)という3つの視点から日本の格差を分析している。統計学や経済学の専門用語が使われているが、それに囚われる必要はない。各組の2つの資料はいずれも対になっているので、それがわかれば読み取りにはそれほど苦労しないはずだ。ただし、昨年度などと違って、どの資料もある程度きちんと読み込む必要がある。

問1は、3つの視点のうち1つを選んで、それに該当する2つの資料をそれぞれ要約するというもの。問2の設問文がほのめかしているように、どの視点も、2つの資料がそれぞれ対立する結論になっている。たとえば、「国際比較」だと、資料1が「日本は先進諸国の中でも格差が拡大している」と論じているのに対して、資料2は「日本は、ヨーロッパと並んで、それほど格差は拡大していない」という結論になっている。その点に気がつけば、どの視点を選んでも、要約自体はそれほど難しくはないはずだ。ただし、この問題は問2とセットになっているので、問2を答えやすい視点を選ぶほうがよいだろう。

問2は、問1で選んだ資料が異なる結論に至った理由の説明が求められている。この問題は、各資料の分析方法まで読み込まなければ答えられないので、意外に難易度が高い。わかりやすいのは「職業の世代間移動」で、これは資料4が先行する資料3の結論に直接反論する内容になっているので、資料の要約ができれば、問2も答えられるはずだ。「国際比較」は、資料1と資料2では対象とするデータの期間が大きく違うことに気づけば、答えやすい。「高齢化」は、2つともかなり専門的な議論をしているので、よほど自信がなければ、選ばないほうが無難だろう。

問3は、3つの視点を踏まえて、4年後に日本の格差がどうなっているかを予想する問題。独創性は求められていないし、どう予想するかもそれほど重要ではない。資料の要点を的確に読み取った上で、それに基づいて論じることができているかどうかのポイントだ。

書き方は、四部構成を応用して、第一部で自分の予想(格差が広がるかどうか)を必ず示す。第二部で、「確かに、Aという視点からは、それほど格差は広がっていないようにみえるかもしれない。しかし、BまたはCという視点からは、今後さらに格差が広がることが予想される」などのように続け、第三部で、その理由を説明するとよい。

そして、最後の段落で、「どのような調査や分析が必要になるか」を答えるようにする。もちろん、受験生にそれほど具体的なことが書けるわけではないが、自分の予想の内容と矛盾しないように気をつけてほしい（たとえば、「国際化の視点から、格差は拡大する」と予想しているのに、「高齢化の視点からこういう分析をしたい」といったことを書いても、かみ合わない）。

昨年度に比べれば、テーマといい設問の形式といい、従来の総合科学部の傾向に近く、オーソドックスと言える。問3は600字という字数だが、小論文をしっかりと勉強してきた受験生にとっては、「型」に当てはめやすい分、昨年度（最大300字）よりむしろ取り組みやすいだろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179）

<http://www.hakuranjuku.co.jp>